

2005年11月22日 朝日新聞掲載

北東アジアの新たな物流拠点として来年の開港を目指している韓国・釜山新港で、物流団地に入る企業の第一号に、福岡運輸（福岡市）と、バイク便のダット・ジャパン（東京）、韓国の大宇ロジスティクス（大宇）の3社連合が内定した。来年夏から操業を始める。社連合が入るのは、11年までに造成を終える物流団地（約120万平方メートル）のうち、すでに、造成隅の約3万3千平方メートルの区画。大宇ロジスティクスなどによると、資本金5億円程度で合弁会社を設立し、1万3千平方メートルあまりの物流センターを建設。ワインや家具、食品や洗剤類などを扱い、ラベル張りや組み立てのサービスも手掛ける。06年の33万トンを皮切りに、当面年間約56万トンの貨物を処理する計画だ。福岡運輸は冷凍・冷蔵貨物を得意としており、ダット・ジャパンは、メーカーなどの物流を一括受託する「3PL」と呼ばれる分野に力を入れている。